自然との共生を子どもたちに伝える

～たかつきのしぜんであそぼう～

ちきゅうっ子応援隊

協力：高槻あいわ保育園

目次

はじめに… p1

1. ちきゅうっ子クラブの誕生 … p3

2. たかつきのしぜんであそぼう … p4

2-1. 山歩きと決まりごと … p5

2-2. 甲子園浜で磯あそび … p7

2-3. 芥川の河川敷を歩く … p8

2-4. 川あそび … p9

2-5. 光る泥だんごに挑戦 … p11

2-6. “ ぷ・エコ ” つくってあそぼう … p13

2-7. 絵本の紹介 … p15

2-8. 活動を通して見えてきたこと … p16

3. ちきゅうっ子応援隊について… p17

あそびの紹介

3-1. 葉っぱや枝であそぼう … p18

3-2. 森の美術館 … p20

3-3. フロッタージュ 自然の表情再発見！ … p21

3-4. 今日から「イクジィ」「イクバア」 … p22

3-5. 葦を使ったあそび … p23

4. 虫探し … p24

「子どものつぶやき」 … p25

付録：虫カードのつくりかた … p27

その他資料等も、閲覧用・配布用に準備しています。ご希望の方や、活動に興味をお持ちの方は、前田もしくは保育園事務室まで、お申し出ください。

小冊子発行にあたって

聖和短期大学　**前田佳代子**
（高槻あいわ保育園元園長）

この冊子は、ちきゅうっ子クラブの誕生から現在までの活動や、地域における活動など、様々な活動の蓄積がベースとなってできています。

「子どもたちと高槻の自然の中で遊ぶことは楽しい」という素直な心地よさ、「私の頃の遊び方と、今の子どもの遊び方は、何かが違う」という違和感、そして、「じゃあ、今の子どもたちは何をどのように感じているのだろうか、どのようなことに興味や関心を持つのだろうか」という疑問などです。

その時々の気付き体験を、高槻あいわ保育園の先生方と持ち寄り、話し合いを重ねました。芥川先生からのご助言もありました。出し合ったアイデアから新しいプログラムができました。また、数年前より地域（芦屋市）でアウトリーチ活動を始めました。

少しずつ積み上げていくことで、形あるものが創出できつつあります。発展途上ではありますが、自然の中の遊びの楽しさを、この冊子を通して皆様にお伝えできれば幸いです。

最後に、多くの人が都市型の生活を送っている昨今では、致し方ないかと思いますが、自然を生活に取り入れ、大切にする生き方を、老若男女、様々な人と共有していきたいと願っています。

ごあいさつ

高槻あいわ保育園園長
植田拓也

高槻あいわ保育園が開園し11年がたちました。保護者の皆様には、平素より園の運営にご理解とご協力を賜っておりますことを、この場をかりて感謝申し上げます。

さて、この度、冊子「たかつきのしぜんであそぼう」が発刊されました。高槻あいわ保育園「ちきゅうっ子クラブ」（5歳児の自然の中での保育）のこれまでの活動が、冊子の中に多く取りあげられています。皆様の、今後の子育てに活かすヒントとなればと願っております。

なお、ちきゅうっ子クラブのプログラム実施にあたっては、長年にわたり、特定非営利活動（NPO）法人リアル・リンク京都より講師芥川ひろこ氏をお招きして、指導・助言をいただいております。この場をお借りして、感謝の辞を表します。

1. ちきゅうっ子クラブの誕生

ちきゅうっ子クラブは、兵庫県宝塚市にあります姉妹園、なかよし保育園の開設時（2000年）に誕生した環境教育のプログラムです。高槻あいわ保育園の開設に際しても、同様にこのプログラムを誕生させました。

「自然は子どもたちの五感を育み豊かにする」といいます。

自然の雄大さや自然の中にいることの心地よさ、私たちの棲み家である地球や命を大切にする気持ちなど、活動を通して子どもたちに伝えたいことが山のようにあります。それはどのような方法を用いて行うのか・・・、突き詰めれば一つの言葉になるのでしょう。それは、「自然の中で、楽しくあそぼう」です。子どもたちには、あそびを通して様々なことを感じてほしいと考えています。

開始当初は、「自然環境」、「エコロジー」という言葉がまだ市民権を得ていませんでした上に、保護者の方々へのアピール不足もあり、「遠くの公園に出かけて遊ぶ」と思われていました。昨今は、自然環境に対する社会的な関心・注目が高いこともあり、保護者の方々にしっかりとご理解・ご賛同いただけて、ありがたく思っています。

地球は、未来永劫に、子どもたちが棲み続ける「家」です。人間も生き物も、みんなが棲みやすい地球を、私たち大人が、大人の責任の下に、残していけるよう努力したいです。

2. たかつきのしぜんであそぼう

どの世代の人にも、幼いころ、自分が体験してきた「原風景」があります。私たちは、保育園での経験が、子どもたちの原風景の一部になると考えています。

園外保育で、自然に触れあそぶことは、①四季折々の自然を感じること。②自然の中での経験を通して五感を育むこと。③様々な生きものの存在に気付き、命を大切にする気持ちを持つことだと思います。

乳児から幼児へ、子どもたちの楽しい経験は広がりをみせます。

お散歩大好き （乳児期～）	・五感を使って体で感じる ・探索活動（遊びや生活の広がり）水・土・おひさま
いろんなところに行きたいな	・四季の自然を求めて ・心地よい、面白い、触ってみよう、ちょっと怖い
発見！こんなのがあったよ	・五感を研ぎ澄まして、宝探しだ、冒険だ ・夏野菜を育てて食べる、実りにありがとう
自然は偉大だ なぞばかり （ちきゅうっ子クラブ）	・いのちを大切にしよう ・不思議の謎解きにチャレンジ（調べてみよう）

2-1. 山歩きと決まりごと

ちきゅうっ子クラブでは、桜公園・摂津峡をはじめとする高槻の山を歩いています。在籍する年度によって、歩いている場所が異なったりもしますが、これまでに5歳児の子どもたちが歩いてきたコースを紹介します。いずれも、子どもたちの体力に合っていて楽しめます。一度ご家族で行かれてはいかがでしょうか。

桜公園・摂津峡、萩谷総合公園、神峯山寺（かぶさんじ）・ポンポン山、太閤道など。

※参考：これらのコースは、高槻市のホームページに紹介されています。

山歩きで事前にすること

1. 下見する …… 安全な道、トイレの場所、危険な動植物の有無など
2. 所要時間 …… 朝出発し、午後帰園する。山森の夕暮れは早い。時間にゆとりを持ち、早めに下山
3. 出発前に …… 朝食を摂る・排せつ・排便、睡眠時間の確保（保護者が見守り確認ましょう）
4. 服装 …… 動きやすく汚れても良い服装、着脱衣できる上着1枚、帽子、履きなれた運動靴、靴下をはくこと

子どもたちの持ち物

1. おにぎり（夏期は保管方法に注意）、水筒、タオルハンカチ、ティッシュ、その他（軍手、ごみ袋など）
2. 宝物いれ（またはビニール袋）、飼育ケースなど
3. 虫メガネ（あれば役に立つ）

大人の持ち物

1. 子どもたちの着替え
2. タオル、ティッシュ、水（ケガをした時、傷口を洗うこともできる）、ゴミ袋（大、小）
3. おやつ（ちょっと疲れた時、甘いものを食べると、また元気が出てくる）
4. 携帯電話、地図 、ホイッスル 、懐中電灯（新しい電池を入れておく）
   救急セット（消毒薬、ガーゼ・絆創膏、包帯、とげぬき、シップ、体温計など）、虫よけスプレー

大切なこと

1. マナーを守る。（挨拶をする。むやみに樹・草・花を取らない、傷つけない。坂道では石を転がさないなどなど。）
2. 水分は、行程を考えて摂るようにする。帰路、「お茶はもうない」ということにならないように、無理のない計画をたてる。
3. 天候の変化に気をつける。登山道から離れないようにする。
4. 歩き方は、ペースの遅い子どもに合わせる。

危険生物の生息

ハチ、マムシ、ムカデ、毒クモ、ヤマウルシ、毒キノコなど、人にとって危険生物が生息します。安全に過ごしましょう。
採集した植物を食べるときは、毒性の有無をしっかり確認しましょう。

2-2. 甲子園浜で磯あそび

兵庫県西宮市にある甲子園浜と、西宮市立甲子園浜自然環境センターを、なかよし保育園（姉妹園）ちきゅうっ子クラブの仲間と一緒に訪問しました。甲子園浜には、阪神間に唯一残された自然の砂浜、干潟、磯があります。また、地域は甲子園浜生物保護地区（市条例）に指定されています。

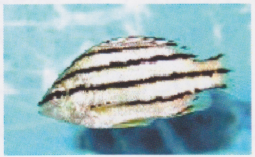
（ミニ情報 … 隣の芦屋市には、人工の潮芦屋ビーチがあり、そこでも楽しめます）

磯あそび　潮が引いた海辺には、磯が広がり、干潟も出現する。磯の生き物の観察や、ビーチコーミング（漂着物の収集）が楽しめる。アサリやカキ、フジツボ、カニなど、都市の海辺にも多くの生き物を見ることができる。磯はカキ・フジツボなどでケガをすることが多い。濡れてもよい靴と靴下を準備し、履き替えると良い。また、事前に、潮の満ち引きの時間を調べて、あそび計画に活かそう。

（ミニ情報 … 満潮・干潮は、気象庁のホームページなどを参照するといい）

甲子園浜自然環境センター　生き物の展示、展望設備の他にも、甲子園の浜辺で見つかった漂着物の展示がある。プラスチック製品の原料となるペレット（細かい粒状のもの）などは、鳥がえさと間違えて食べてしまうこともあるとのことで、環境汚染が生き物に与える影響について考えさせられた。

甲子園浜に生息する生き物（展示物より）


シマイサキ

タテジマイソギンチャク

ケフサイソガニ

2-3. 芥川の河川敷を歩く

道は南北に数キロ続いています。途中には「あくあぴあ芥川（自然博物館）」があり、桜公園・摂津峡に繋がっています。

河川敷は楽しい。草むら、道、川の中・・・と、さまざまなところで発見があります。

歩くときの約束事は、

- 自分のスピード（ペース）で歩いていいけれど、集団行動なので、勝手な行動をしないこと。
- 先頭の保育士より先に行かない。後ろの保育士より遅れない。
- 「すごい発見」をしたときは、みんなに声をかけて教えてあげる。

ワイワイと歩いていると、地域のおじさんが声をかけてきた。
「たのしそうやなぁ」「どこ行くの？」そして、大切なことを教えてくださった。「みんなこの花の名前知ってるか？」「『卯の花（うのはな）』やで。歌に出てくるやろう」。

そばには、大きめで、整った形の白い花が、少し恥ずかしげに咲いていた。唱歌『夏は来ぬ』のことだ！ 確かに、小学校の頃、歌った記憶がある。実物は、想像していた以上に美しい花であった。

歌詞が難しいため、きっとその心情を理解できていなかっただろうが、馴染みやすい曲想で、よく口ずさんだものだと、懐かしく思った。

2-4. 川あそび

楽しい川遊びを始める前には準備が大切です。事前に下見をし、危険な箇所をチェックしておきましょう。その上で、安全に遊べる場所や道を選択し、危険のないようにします。また、2日前ぐらいから当日までの天候にも注意が必要です。最近では、突発的で局地的な豪雨や雷雨が夏場に多く見られるようになってきていますので、活動が始まってからも、空の状況には十分に注意しておきましょう。

準備物…タモ（玉網）、バケツ（水槽）、虫網、虫かご、虫めがね、図鑑。
水筒やお弁当、日よけテントなどを準備すると、ピクニック気分が味わえますね。

服　装…長袖Tシャツ、長ズボン、濡れても良い運動靴（サンダル可、かかとを固定できるタイプ）、帽子等。

約束事…実際にフィールドに出ると、まず、子どもたちと確認をします。
- 川の中は滑るのでゆっくり歩く
- 濡れている岩の上も滑りやすいので気を付ける（濡れた靴も滑りやすい）
- 保育士（大人）の笛が聞こえたときは、すぐに集まる
- 怖くなったら、大声で助けを呼ぶ

上記のことなど、滑りやすい様子や場所などを実際に見せながら伝えます。

事前にチェック
川の深さ
流れの速さ

生き物を捕まえるポイント

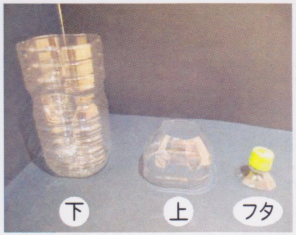
岩と岩の間や、川底に生えている草などの付近にタモをゆっくりと近づけ、底から水面方向へ、ゆすりながら上げる。また、水中の岩をゆっくりと持ち上げると、ヤゴやサワガニなどの生き物がよく見つかりますよ。
少しのあいだ飼ったら、元の棲み家に戻してあげてね。
芥川で見つけた生き物は、サワガニ、ヌマエビ、スジエビ、アカハライモリ、カワヨシノボリ、オイカワ、ドンコ、カワムツ、ムギツク、ニホンアマガエルなど。たくさんの川の生物に出会うことができました！

セルビン

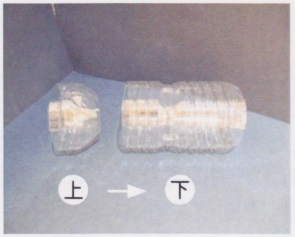
子どもたちは目を光らせながら生き物を探しています。しかし、ときには“ぼうず”（何の生き物も捕まえられない）で帰ることもあります。自然が相手ですので、よくあることなのです。が、そのようなときにお父さん、お母さんの「すごさ」を見せつけましょう！そこで使うのが「セルビン」、魚などの生き物を捕獲するしかけです。このセルビンを、川に来てすぐに、子どもたちに“内緒”でしかけておきましょう（重石の石と餌を入れ沈める。前日よりしかけておけばさらに捕獲確率アップです！）。“ぼうず”で諦めかけたとき、しかけに生き物が入っていれば、子どもたちの嬉しさは計り知れません。
ここでは環境のことを考慮し、リサイクル素材（ペットボトル）を使ったセルビン作成方法を紹介します。

※セルビンを使用しても生き物が捕獲できないこともあります。

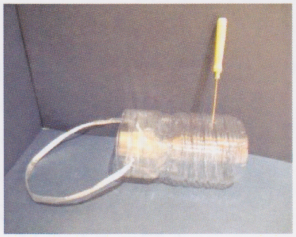
① 準備物（右からペットボトル、ヒモ、キリ、カッター）



② カッターナイフで上から1/4のところを切る



③ 図のようにはめ込む



④ 本体に穴をあけ、ヒモを通して持ち手を作る

セルビンで生き物が捕獲できることを知ると、子どもたちは興味が湧くはず！　一緒にセルビン作りを楽しみましょう。自分で作ったしかけに生き物が入ると、これまで以上の喜びが感じられるはずですよ。

＊セルビンの見本や作り方は保育園事務室に展示しています。（矢田）

2-5. 光る泥だんごに挑戦

過日、『光る泥だんご』の著者であり、子どものあそびを研究されている加用文夫先生（京都教育大学）に来園いただき、直接指導を受けました。

本日の目標　≪泥だんご作り、そしてそれをちょっと光らせる！≫

必要なのは
水（少量）と土（乾いた土、さら砂）、保管庫（だいたいは、靴箱になる）、根気、おしゃべりしながら一緒にやれる友達・・・
乾いた布（雑巾など）、磨く布（ジャージとか安物のストッキングが最適）

作り方

- 土を濡らして、ぎゅっぎゅっと握って土台になる玉を作る。水分を絞り出しながら、できるだけ丸い球体にしていく。表面のどこにも凸凹がないということが重要。
  最初、玉はまだまだ濡れぬれなので、乾いた土を振りかけて、握りしめたり、指先とか爪を使って出っ張り部分を押したり削ったり、凹み部分を埋め合わせたり、あれこれやってみる。
- さらになめらかな玉を目指す。あとからの修正は難しいので、ここで完璧な球体をめざす。
  土台の玉の上に、乾いた土を振りかける。そのあと、余分な土をそっとなぞるように落としていって、なめらかな球面を作っていく。玉を転ばして、また別の所に土をかけて、またなぞって・・・・。これを繰り返すと、表面がきめ細かい、きれいな球体ができあがる。

休ませる

- きれいな球体ができたら、乾いた雑巾などにそのまま置いて自然乾燥させる。どのくらい休ませるかは大いなる問題。その日の湿度、作っている玉の大きさ、土台の土の質などによって異なる。いろいろ試して、失敗を重ねていくと「ピン！」とくるようになる。
- 均質に乾燥させることが大切。休ませていると、上側と下側で乾燥の仕方にずれが生じることがあり、玉の表面にまだら模様が生じ、美しくならない。玉の湿度分布を一様にするためには、ビニール袋に密封放置するのがいい。
- 休ませた玉は見た目よりもしっとりと湿っているので、これにまた土を振りかけて、あとをなぞり・・・と、球体作りの続きをする。表面が固めになってきたら、そおっと、表面を削るように手でこする。数十秒こするだけで、ざらざらした面がつるんとした面になり、一気に色合いも変わる。
- だんごの皮膜は、「さら砂」で作っていく。「さら砂」とは何か？これは、ぜひ子どもたちに聞いてほしい。手を地面に当ててさすると掌が白っぽくなり、さら砂が手に付着するので、これを玉の表面にすり込む。一カ所だけに偏らないように、玉全体にまんべんなくすり込む。
- 小１時間ほど続けるとイイ感じになるので、磨く布で磨く。ひび割れしやすくなるので、あまりしつこく連続的に磨かない。光ってきたらほぼ完成だ。

参考文献：加用文夫著『光る泥だんご』（ひとなる書房）

2-6. “ ぷ・エコ ” つくってあそぼう

リアルリンク京都　芥川ひろ子

牛乳パックで　～ かみを　つくる ～

飲み終わったあとの 牛乳パック はどうしてる?
捨てる?　まとめてスーパーに 持っていく?
ちょっとまって!! 牛乳パックが すてきなものに 大変身!

紙パック

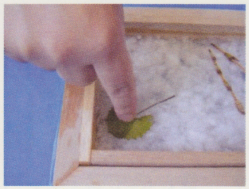
用意するもの

牛乳パック　ミキサー　紙すきの枠　洗い桶・バケツ　　他（水の吸える掃除機）

作り方

① 牛乳パックを開く
② 台所用洗剤を溶かした水に①を1日～2日つけておく
③ 牛乳パックのコーティングを両面はがす（まんなかの 紙を使う）
④ 残ったまんなかの柔かい紙を細かくちぎる
⑤ ミキサーに④と水を入れてドロドロにする
⑥ 水を張った洗い桶に枠を入れ、ドロドロになった牛乳パックを
枠の中に流し入れて 紙をすく

このとき押し花や落ち葉を入れるとあなただけのオリジナルになる



⑦ 枠を水の中から取り出し内側の枠をはずす

⑧ 枠の裏側から掃除機で水分を吸い取る

水の吸える掃除機がなければ 紙がはがせるくらいになるまでそのまま乾かす

⑨ 枠から紙をゆっくりはがす

⑩ 窓ガラスやトレーなどに貼り付けて乾くまで待つ

完全に乾けばできあがり！　乾くと紙はハラリと落ちる

（芥川）

2-7. 絵本の紹介

『はらぺこあおむし』（偕成社） エリック＝カール（さく）， もり ひさし（やく）	『ざりがにのおうさま まっかちん』 （福音館書店） 大友 康夫（作・絵）
『おたまじゃくしの 101 ちゃん』（偕成社） かこ さとし（絵と文）	『はじめてのかさ』（至光社） 宇治 勲　絵と文
みるずかん・かんじるずかん 『地面の下のいきもの』（福音館書店） 大野正男（作），松岡達英（イラスト）	かがくのとも傑作集―どきどきしぜん 『アリからみると』（福音館書店） 桑原 隆一（作），栗林 慧（写真）
『セミたちの夏』（小学館） 筒井 学（写真・文）	こん虫のふしぎ『こん虫のどうぐ』他 （偕成社） 岡島 秀治（監修）
『野の草ノート』（文化出版局） いわさ ゆうこ（作）	『The Sense of Wonder/ センス・オブ・ ワンダー』（新潮社） Rachel Carson（著），上遠恵子（訳）

2-8. 活動を通して見えてきたこと

この活動がとても重要だと思うのは、5歳児という、自由で、とても好奇心が旺盛な時期に、四季折々の自然体験をすることにあります。活動を通して子どもたちが何を感じるのかは、同じであったりそれぞれに異なっていたりしますが、それが感性として身につき、個性の一つとなるのだと考えます。11年間の活動を通して見えてきたことの一部をお話しします。

子どもたちの様子

・おにぎり、バンダナ、宝物入れ。ちきゅうっ子クラブの道具は子どもたちの気持ち作りに役立つ。
・ワイワイと楽しみながら歩くことで、弱音を吐かず山道を歩いたり、距離を伸ばしたりができた。
・市民の方々への挨拶、ゴミを持ち帰ることなどのマナーが身についてきた。

保護者の意識

・ちきゅうっ子クラブの活動に興味を持たれ、積極的に協力して下さるようになった。
・休暇を取って参加される方が増えると同時に、お泊まり保育などの行事への参加も増えた。
・「なぜ子どもが虫に夢中になるのかがわかるような気がする」
　虫に関心がなかったお母さんが、活動を体験された後、語られた。

園長の計画

・自然が大好きな「イクメン」を製造中
　お父さんの子ども時代の体験をぜひ子どもたちに伝えてください。
・「ちきゅうっ子クラブ・ミニ」　他の年齢にも波及させたいと企画中

（植田）

3. ちきゅうっ子応援隊について

「ちきゅうっ子応援隊」は、園外保育における保育士の保育力（意識や知識・技術）を高めることを目的に、高槻あいわ保育園の保育士（有志）が立ち上げた小さなボランティアグループです。内容としては、①子ども達の姿や活動状況を理解する　②高槻の自然を知る　③保育士の保育力を高める　④地域向けの活動の企画などを考えて活動しています。ですが、仕事をしながらのため、満足できるほどの時間と労力を注ぐことができていません。

②の活動の一環として、子どもたちが園庭の小虫に関わる姿を１年間記録にとり、「園庭の身近な生き物ベスト１０」を作成しました。また、「虫カード」として、本誌の付録に付けています。

④の活動の一部を以下にご紹介します。

兵庫県芦屋市で活動を続けて４年になります。自然が大好きな活動仲間も増えつつあります。なぜ芦屋市なのか、それは、「今日からイクメン」という事業名で、芦屋市男女共同参画課の助成を受けて活動しているからです。もちろん、高槻市での活動を切望していますが、そちらの実現にはまだ至っていません。

コンセプトは、「家族で、自然でのあそびを楽しもう」そして、「自然の生命の大切さと、生態系の保全に興味・関心を持とう」というものです。また、あそびを通して家族で共感しあう時間を持つという原点も大切にしたいと思っています。

プログラムでは、自然物を用いた遊びを体験していただくため、いろいろな遊びを提供しています。プログラム例を紹介します。　　（この活動に興味・関心をお持ちの方は、気軽にお声かけください）

3-1. 葉っぱや枝であそぼう

葉っぱや枝は不思議でいっぱい。春の花や秋の紅葉など美しいだけではありません。
観賞して豊かな感性を育てることも大切なことですが、遠くから観賞しただけでは見えない様々な発見をしながらイメージを膨らませ、自由に表現することもとても楽しいあそびのひとつです。
「虫」をテーマに葉っぱや枝、木の実などを使って製作をしました。

準備物

山や河原などで採集した葉っぱや枝、木の実などの自然物、接着や展示するための文房具（フェルトペン、画用紙、ホッチキス、木工ボンド、セロテープ（両面テープ）など）。

初めはパーツ集め

自分の好きな虫をイメージします。ひとつひとつの形状や色などが異なる自然物から、イメージに合う“とっておき”のパーツを選びます。選んでいる最中に、「虫にたべられている葉っぱがあった！」や、枝分かれしている枝を見つけ「カブトムシの角にしよう！」など、手に取って近くで見てみると様々な発見があります。次は、パーツを組み合わせます。組み合わせ方も十人十色で、同じものはひとつとなく、また同じものを作ろうとしても毎回違った形となります。葉っぱの魅力に、子どもたちの芸術性が呼び覚まされます。まさに、「芸術は爆発だ（岡本太郎）」ですね。最後に作品の飾りつけ。植物の弦を飾り付けたり、木の枝で額縁を作ったりして作品を

完成させていきます。製作を進めていくと、子どもたちの“あそびごころ”や探究心には驚かされます。作品を作り上げると、自分の手で虫と虫を戦わせてあそんだり、虫かごを作って入れたりと、“とっておき”の「おもちゃ」となるのです。

作品の発表会をしたり、展示したりすると、またひとつ盛り上がりますよ！

もうひとつの魅力

実はこのあそびにはもうひとつの魅力があります。完成させたり遊んだりすることで終わりではなく、お家などで飾っていると不思議なことが起こります。

それは・・・葉っぱや枝、木の実などの色が変化していくことです！

作品に使用しているのは、採りたての自然物。水分が抜けていくと変色し、作りたてとはまた違った作品に変身します。一度の活動でたくさんの楽しみ方ができるあそびです。

（矢田）

◆素敵な作品の数々

3-2. 森の美術館

活動１・・・作品づくりのため、フィールドに出て落ち葉拾い
準備物・・・宝物入れ（ビニール袋）、軍手などもあればよい。
フィールドは、わざわざ遠くの山や海川を目指さなくても、身近にある公園で十分。ゆっくり歩くといろいろな自然物に巡り合える。
どんぐりや木の実、小枝なども集めよう。

活動２・・・紙のキャンパスに広げてみよう。
どのレイアウトがいいのかな・・・。
悩んでしまう。
少々はみ出したって構わない。
だって、アートだもの。

ウルシやハゼは
かぶれやすいので
気をつけよう

活動３・・・皆の前で発表。
とても緊張する一瞬だ。
残った自然物は持ち帰ろう。
紙テープにはっぱを貼っていくと、首飾りやモビールが出来上がる。
どんぐりのコマや、ツバキの実の笛…いろいろつくってみよう。　（植田）

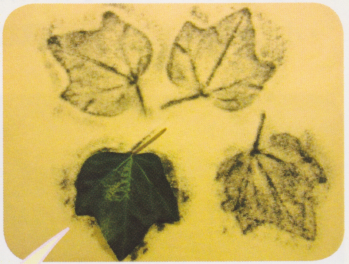
3-3. フロッタージュ 自然の表情再発見！

（葉っぱ・石など、自然のものをモチーフとして、形や模様を写しとります）

タンポ
真ん中に箸を入れると手がよごれない

準備物　モチーフ（形の面白い葉っぱや石・貝がらなど、表面がなめらかでない物）
絵具（お皿に溶いて、いらない布やティッシュに吸わせ、スタンプ台にする）
（絵具以外に、鉛筆やクレパス・クレヨンもそれぞれの持ち味が出て楽しい）
手作りタンポ（綿や不用な布を、ガーゼや不用な布で包み、輪ゴムで止める）
馬連（バレン / こすり出す時に使う）
薄い紙（写しとる紙）、新聞紙（周りを汚さないために敷く）

写しとるには、いくつかの方法があります。ここでは2つを紹介します。



ポンポンたたくと・・・
こすってみると・・・

方法①　新聞紙を敷き、写しとりたいモチーフを置き、薄い紙を載せる
しっかり固定する（これが出来上がりに大きく影響する
大人が手伝う、洗濯バサミ・ホッチキスなどを用いるとよい）
タンポに絵具を吸わせて上からポンポンたたく、

方法②　新聞紙を敷き、写しとりたいモチーフに直接絵具をぬって、
上に薄い紙を載せる。しっかり固定する。
紙の上からバレンでこすり、モチーフの模様を写しとる。

3-4. 今日から「イクジィ」「イクバア」

子育ては、「保護者にその第１義的責任がある」と言われています。でも、そばにいる祖父母や親せきの協力があると、子育てにゆとりが生まれます。国民の 1/3 が高齢者というこの時代、元気な高齢者が街にあふれています。そして、高齢者が、「イクジィ」「イクバア」として子育てにかかわると、子どもたちから元気をもらえるという特典もついてきます。遠慮せずに、子育てを助けてもらいましょう。そして、ぜひ、世代を超えた素敵な関係を作りましょう。・・・ただし、長時間は、疲れてしまいますよ。

伝承したいあそびと自然物を使ったあそび

- コマまわしのコツを伝授する
- （どんぐり） コマや手作り凧を作る
- 小枝の編み針で小物を編む。小枝のＹ字リリアンでヒモを編む

上：編み針　　下：Ｙ字リリアン

★編み針やリリアンの作り方

- 編み針用の小枝２本は、できるだけ同じ長さと太さの枝を探す
- 棒は少し歪んでいてもいいが、表面に凸凹がなくなるようにカッターなどで削る
- 棒の先はあまりとがらせすぎず、滑らかにする

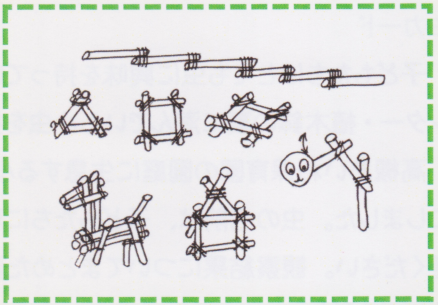
3-5. 葦を使ったあそび

河川に茂っている葦（アシ・ヨシ）は身近な自然素材です。その葦と輪ゴムを使った工作遊びです。

準備物・・・切りそろえた葦の軸（7.5 cm、10 cm、15 cmなど）、輪ゴム、その他（モール、木工ボンドなど）

※葦は、４月の終わりごろ芽を出して急速に成長し、８月には２mほどになる。９月には穂を出して開花し、11月には葦全体が枯れてしまう。この頃が採取時期。なるべく太くてまっすぐなものを根元から刈取り、枯れた葉っぱを丁寧に取り除き、軸を定寸（7.5 cmなど）にカットする。葦の軸は中が空洞で割れやすいので、目の細かい鋸や、カッターナイフなどで丁寧に切断する。

基本の制作・・・同寸の軸を６本用意し、輪ゴムで順につないで1本の長い棒を作る。輪ゴムのかけ方は、４～５回程度にし、あまりきつく固定しない。この棒は、ゴムの締結部分が関節のように自由に曲がり、三角形、四角形…六角形が簡単に作れる。また、図形だけでなく、数字や家、船、山などができる。伝統芸「南京玉簾」で釣竿や橋などを作るのと同じだ。



応用制作・・・基本の三角形や四角形を組み合わせたり、別の軸を連結させたりすると、三角錐や四角錐等の立体、さらにはタワー、馬などの動物、イカダや船などの乗り物ができる。ゴムの弾性によって曲げても元の形に戻るので、この復元力を利用すると、動くおもちゃの制作へと展開できる。びっくり箱、野球ゲーム（打撃）等、工夫次第で色々な楽しみ方が考えられる。（池内）

4. 虫探し

保育園の子どもたちは、春夏秋冬どの季節でも、園庭に出ると隅々まで探し回って、小虫をつかまえたり、観察したり、絵本や図鑑と見比べたりと、虫と関わることに夢中になっています。

虫探しのための準備物

砂遊びの用のバケツとザル（バケツのフタになる）または飼育ケース、スコップ（まだ、虫を手で触るのが怖い子どもはこれを使って捕まえている）

約束事

小虫にはやさしく接する。

飼育する場合、生息している環境に似た状況を作る。長期間飼育しないで、元の棲み家に戻す。

虫カード

子どもたちはとても虫に興味を持っています。春から秋にかけてはもちろんですが、厳冬期でも、葉っぱやプランター・植木鉢の裏に潜んでいる小虫を探しています。

高槻あいわ保育園の園庭に生息する小虫を、子どもたちと1年間かけて観察し、その中で人気の虫たちをカードにしました。虫の名前は、子どもたちに馴染みのある小虫たちという独自の視点で用いています。どうぞお含みおきください。観察結果についてまとめた資料が保育園事務室にありますので、閲覧していただけます。お気軽にお申し出ください。

（日本保育学会第６５回発表「保育園の園庭に出現する身近な生き物とそれへの幼児の関わり」植田、矢田、前田）

子どものつぶやき

事例1：アリ 「手噛まれるんちゃう」 3歳児	事例2：コオロギ 「ゴキブリおった」 3・5歳児
7月の夏の暑い日。畑の近くでA児が「虫死んでる」と一言。その声に反応した数名がすぐに駆け寄ってきて、虫の様子を観察した。 B児が虫の死骸にアリが群がっているのをすぐに見つけた。「うわ。アリが皆で運んでる。」「皆で食べるんかな。」と口々に会話が弾んでいた。その時C児がB児に「アリ捕まえてや」と言った。B児は虫が好きでいつも捕まえていたが、このときばかりは「いっぱいおるし、手噛まれるんちゃう」と、大群のアリが死骸に群がっているのを目の前にして少し躊躇した様子を見せた。	10月の秋のある日。異年齢児集団が虫を探していた。F児（3歳児）が芝生の中を素早く歩くコオロギを見つけて、驚き少し怖がった様子で「今、ゴキブリおった。気持ち悪。」と言った。側で一緒に虫探しをしていたG児（5歳児）がすかさず「あれコオロギやで。ちゃんと見てみ。」と知らせた。その後G児がそのコオロギを捕まえ、皆に見せていた。F児は「ほんまやコオロギや。」と言いながらも近くでは観察せず、少し離れたところから見ていた。

事例3：冬の虫探し 「いっつもここにおるから」 3歳児	事例4：バッタ 「これ食べてみ」 1歳児
1月の寒い冬。たくさんいた生き物が見られなくなったある日。数名の集団が「虫探しをしよう」と集まり、園庭を探し回っていた。少しして、A児が「あかん。いてないわ」とあきらめかけたとき、近くにいたB児とC児が「あそこならミミズとかダンゴムシとかおるで」と一言。あきらめかけていた数名が、半信半疑で指差すコンパネの間を覗いてみると、数種類の虫が見つかった。皆はB児とC児に「すごいな！なんでわかるん？」と口々に言った。B児とC児は「いっつもここにおるから…」と少し照れた表情を見せた。夏以降も園庭で遊ぶ度に虫探しをしていた2人には、自然と高温多湿の場所を探すなどの知識が身についていた。	9月の初秋、1・2歳児の集団で公園に出かけた。子どもたちは、虫や花などが大好きだ。実際に虫に触ることは怖い様子で、いつも少し離れたところから見ている。すると、A児（1歳女児）がいつになく真剣な面持ちでバッタの近くまできて「これ食べてみ」と、大事そうに持った小石を差し出した。保育士が「バッタさんのために探して来てくれたの。ありがとう。食べてくれるかな。」と石を近づけたが、もちろん食べることはなかった。「バッタさんは、きっと、はっぱが好きなのよ。」と伝えると、A児は「ふーん。」とうなずいた。 このやり取りを忘れかけていた数日後のこと、バッタを捕まえた保育士のところへA児が近づいてきた。その小さな手には、はっぱが握りしめられていた。　（にじっこ保育園）

付録：虫カードの作り方

① カードの紙を、切り取り線にそって、本と切り離す。

② さらに、1枚ずつのカードに、切り離す。

③ 印のあるところ（左上）に、パンチで穴をあける。
（パンチは園の事務室にあるので、使ってね）

④ カードはまとめて、ヒモや、お菓子についていたリボンなどに通すと、ばらばらにならない。

（首からかけるときは、首が絞まらないように、気をつけてね）

企画・編集・執筆　前田 佳代子（聖和短期大学）

執筆協力者　芥川 ひろ子（NPO法人リアル・リンク京都、ちきゅうっ子応援隊講師）…… 2-6

池内　清（公益財団法人日本自然保護協会自然観察指導員）…… 3-5、付録「虫」

植田 拓也（社会福祉法人愛和会高槻あいわ保育園園長）…… 2-8、3-2、付録「虫」

矢田 明規（社会医療法人愛仁会にじっこ保育園園長）…… 2-4、3-1、付録「虫」

←このあたりにあなをあける

むしかーど

あり

だんごむし

おんぶばった

あり（写真はクロオオアリ）

① すには、1ぴきの じょおうありと、おおくの はたらきありがいる。

② みちばた、くさむらなどの、じめんのしたに、すをつくる。

③ むしや、あまいものが すき。たべものが おおきいときは、ちいさく かみくだいたり、みんなで ひきずったりして、すまではこぶ。

④ ちいさい あみめありには、じょおうありが いない。

① からだのかたち、とくちょう など

② すみか

③ たべもの

④ そのほか

おんぶばった

① うえに のっているのが、おすの ばった。
したが、めすの ばった。

② くさむら、あきち、かだん、かていさいえん などにいる。

③ はっぱを たべる。
きく（科）のはっぱが だいすきだ。

④ ゆっくりうごくので、つかまえやすい。

だんごむし（写真はオカダンゴムシ）

① あしは、14ほん。さわると、まるくなる。
かわをぬいで、おおきくなる（だっぴ）。

② いしのしたや、ものかげに、かくれている。

③ おちばや くさったしょくぶつを たべる。

④ まるくならないのは、わらじむし。

かえる

かまきり

くさぐも

くまぜみ

あぶらぜみ

つくつくぼうし

かまきり（写真はハラビロカマキリ）

① まえあしは、2ほんの、おおきなかまに なっていて、えものを つかまえる。

② くさのなかに、かくれている。

③ ばったなど、ちいさいむしを つかまえ、たべる。

④ おすは、こうびをしたあと、めすに、たべられてしまう ことがある。

かえる（写真はニホンアマガエル）

① おたまじゃくしは、かえるの こども。

② あめあがりに、よくでてくる。

③ はえや か などの、ちいさいむしを、たべている。

④ さわったあとは、かならず、てをあらう。

せ み

③ きにとまって、はりのような くちを、みきに さして、しるをすう。

④ くまぜみ　くろくて おおきく、はねは とうめい。しゃあしゃあ…と なく。

あぶらぜみ　はねは ちゃいろで、もようがある。じーじー…と なく。

つくつくぼうし　ほそながく こがた。
つくつくぼーし、つくつくぼーし…と なく。

くさぐも

① はねがない。あしは 8ほんある。おしりから、いとがでる。

② くらいところに かくれている。

③ ちいさいむしなどを たべる

④ うごきが はやく、つかまえにくい。

こおろぎ

しろてんはなむぐり

ちょう

てんとうむし

しろてんはなむぐり

① からだが かたくて、つやつや している。
かなぶんは、なかま。

② くぬぎや、こなら などの、きのしるを なめに、
あつまってくる。

③ なかまには、はなに もぐって、かふんをたべる、
はなむぐりがいる。

④ せいちゅう（おや） で、ふゆをこす。

こおろぎ

① おすは、はねを こすりあわせて、なく。

② くさむらや、はたけにいる。

③ はっぱや、ちいさいむしを たべる。

④ うごきが はやく、うしろあしで、たかく とぶ
ので、つかまえにくい。

てんとうむし（写真はナミテントウ）

① おひさま（てんへのみち＝てんどう）にむかって、
とんでいく。

② いしのしたや、きのかわのしたなどに、
あつまって、ふゆを こしている。

③ せいちゅう（おや） も、ようちゅうも、
あぶらむしを たべてくれる（えきちゅう）。

④ おどろくと、しんだふりをしたり、きいろいしる
をだす。

ちょう（写真はキタキチョウ）

① ４まいの はねは、りんぷんや、けで、おおわ
れている。

② ようちゅう（いもむし） は、さなぎになり、
やがて ちょうになる。

③ ストローのような くちで、はなの みつや、
じゅえきをすう。

④ うごきが はやく、つかまえにくい。

とんぼ

はさみむし

なめくじ

みみず

はさみむし（写真はオオハサミムシ）

② おちばや いしのした、うえきばちのしたに
すんでいる。

③ だんごむしや あおむし、けむしなどを
つかまえて たべている。

④ おしりの、おおきなはさみに、はさまれると いたい。
おや（せいちゅう）は、こども（ようちゅう）の
せわをする。

とんぼ（写真はアカネ・アカトンボ）

③ おおきなめで、かや はえなどの、ちいさいむしを さがして、つかまえる。

④ めを、たいせつに している。めに ついたごみは、あしで、そうじしている。

ぼうのさきなど、みはらしの よいところに、
とまるのが すきだ。

みずのなかにいる やごは、とんぼの あかちゃんだ。

みみず

① あめが ふったあとに、えんていで、
よくみかける。

② うえきばちのしたや、いしのしたにいる。

③ おちばなどを たべる。

④ かたいつちに、とんねるをほり、
じめんを ふかふかに、たがやしてくれる。

なめくじ（写真はチャコウラナメクジ）

① まきがいの、からが ないもの。
カタツムリは なかまだ。

② いしのしたや、ひかげなど、
ぬれているところにいる。

③ ざっしょく。なんでも たべる。

④ うごいたあとは、ぬるぬるの せんがつく。
おひさまが にがて。

あめりかざりがに

どんこ

さわがに

すじえび

どんこ

① からだは ずんぐりしていて、あたまが
おおきい。

② ながれが ゆるやかな、すなや いしころの
あるところにいる。

③ いきている ちいさいさかなや えび、
むしをたべる。

④ ちいさいさかなを、たべてしまう。
いっしょに かわないこと。

あめりかざりがに

① かわをぬいで、おおきくなる（だっぴ）。

② たんぼのそばの、おがわや ためいけに、
すんでいる。

③ みずくさ、こざかなや おたまじゃくし、
こんちゅうなど なんでもたべる。

④ かくれていそうなところに、するめを、
いとでくくって たらすと、たべにくる。

すじえび

① からだは とうめいで、くろいすじが みえる。
よるに、かつどうする。

② かわや いけの、みずくさのあいだに
かくれている。

③ ちいさなさかなや、みじんこを たべる。

④ ぬまえび、てながえびなどの なかまがいる。

さわがに

① ひるは、いしのしたなどに かくれていて、
よるに、かつどうする。

② みずが きれいなところに すんでいるが、
もりや どうろにも、でてくる。

③ みずくさや こんちゅう、みみずなど、
なんでもたべる。

④ めすは、なつに、あかちゃんがにを、
だいていることがある。

あおいらが

ちゃどくが

すずめばち

まむし

ちゃどぐが

① ちゃいろと くろの、まだらもようで、
ほそい けが、はえている。

③ つばきや さざんかにいて、なんびきも
あつまって、はっぱを、たべている。

④ さわらなくても、どくの はりが、
とんでくることがある。はげしい いたみを
かんじる。ちかよらないようにしよう。

あおいらが

① きみどりいろに、あおいせんがある。
とげとげは、どくばりで、ささると、でんきに
ふれたような、はげしい いたみをかんじる。

③ さくらや かえで、うめ、かきなど、
いろいろな きのはを、たべる。

④ きのしたに、ちいさい くろいふんが、
ちらばっていたら、きをつけよう。

まむし

① ずんぐりしていて、せなかに、まるいもんが、
ならんでいる。

② たにまや、たんぼのそばなど、
じめじめしたところに、おおくいる。

④ まむしに であったら、ちかよらない。
かまれると はげしくいたみ、はれてくる。
しぬこともあるので、おとなのひとをよび、
いそいで、びょういんへいく。

すずめばち（写真はキイロスズメバチ）

① きいろの しまもようがある。さされると、
あなふぃらきしーしょっくしょうじょうを おこ
し、しぬこともある。びょういんへいく。

② あめや かぜが、あたらないところに、
すをつくる。

④ あきになると、すをまもるため、こうげきてき
になる。

MEMO

2016年１月発行